

# 一房のぶどう



第3号

平成17年3月15日

編集・発行 / あきる野市教育委員会 〒197-0814 あきる野市二宮350

042(558)1111(代)

## 家庭への3つの呼びかけ

### 食卓で心を温めよう

食事をしながら子どもの話に家族で耳を傾け、共感し、受け止めるだんらんを大切にしましょう。

### 子どもを家事に参加させよう

子どもが家事に興味を示したときがチャンス。面倒でも手問ひまかけて教え、親子が協力しあう中で、家族の一員としての意識がはぐくまれます。

### テレビの見方に注意しよう

子どもに判断力がつくまでは、テレビ視聴を子ども任せにしないことが大切です。



平成17年成人式

新成人と子どもたちの国歌斉唱に、輝かしい未来を感じた。



第9回合同作品展

魅力的で個性あふれる作品展  
あきる野市心身障害学級と都立あきる野学園の共催



地域に根ざした行事

「どんど焼き」  
家庭・学校・地域の強い連携で毎年行なわれている。  
南秋留小学校  
(詳しくは、8ページ参照)

## 毎月第2日曜日は「家庭の日」です

家族の結びつきが希薄になってきているといわれている今日、市では家族のコミュニケーションを密にし、親子の絆を深めるとともに明るい家庭づくりに努めていただきたいという願いを込めて、毎月第2日曜日を「家庭の日」として設定しています。

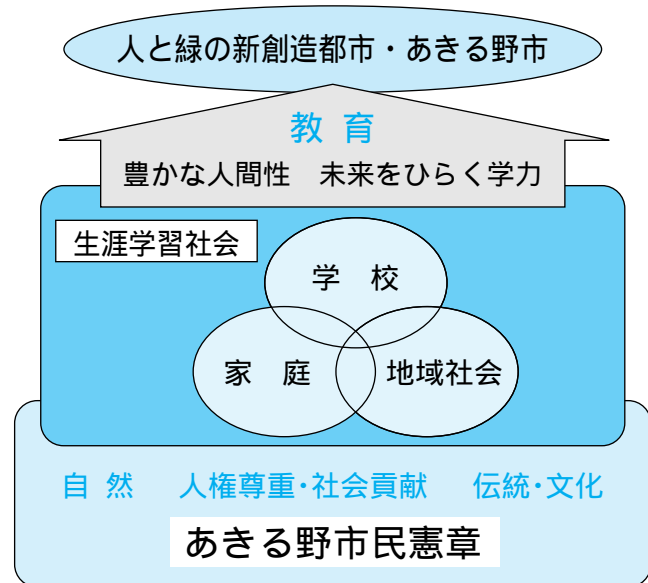
# 平成17年度あきる野市教育委員会の教育目標

教育目標の実現には、家庭、学校、地域社会、そして行政が共通の課題意識をもち、それぞれの役割を果たしていくことが大切です。教育委員会では、この4者が密接な関係の下に協同すること、つまり「緊密な連携」を図りながら、平成17年度の教育目標及び基本方針に基づく重点施策の推進に力を注ぎます。

## 教育目標

あきる野市教育委員会は、人権尊重と社会貢献の精神を基調とし、あきる野市民憲章に則してすべての市民が豊かな自然や文化・伝統に誇りをもち、生涯を通じて学ぶことのできる生涯学習社会の実現を図る。その中で、家庭、学校、地域社会がそれぞれの役割と責任を自覚し緊密な連携のもとに、子どもたちが心身ともに健康で、豊かな人間性と未来をひらく学力を兼ね備えた市民として成長し、「人と緑の新創造都市」あきる野市の発展に貢献することを期して、教育を推進する。

平成17年度あきる野市教育委員会教育目標(図)



## 基本方針

- 1 人権尊重と社会貢献の精神をはぐくむ教育の推進**  
 すべての市民が、自他の人権について理解を深め、責任を自覚し、協力し合い、安心して社会生活を送れるよう、人権尊重と社会貢献の精神を育成する教育を推進する。
- 2 豊かな人間性と未来をひらく学力をはぐくむ教育の推進**  
 子どもたちが、国際社会に生き社会の変化に主体的に対応していくために、基礎的な学力の向上を図り、個性と創造性を伸ばす教育を推進する。
- 3 生涯学習の推進と文化、スポーツ・レクリエーションの振興**  
 すべての市民が生涯を通じて自ら学び、文化やスポーツ・レクリエーションに親しめるよう、社会参加の機会の充実を図る。
- 4 家庭、学校、地域社会の連携・協力の強化**  
 子どもたちが、乳幼児期から、豊かな体験を通して健やかに成長できるよう、家庭教育や地域活動を支援するとともに、家庭、学校、地域社会が一体となった教育環境づくりを推進する。

### 人権尊重と社会貢献の精神をはぐくむ教育

人権教育総合推進地域事業（文部科学省指定）を中心に、家庭、学校、地域社会、行政が連携して、人権感覚を身につけそれを態度や行動に現せる子どもを育成します。

道徳授業地区公開講座（全校全学級の公開授業） 人権教育推進協力校  
あきる野市人権教育総合推進会議（市民、学校、幼稚園・保育園、行政等で組織）  
人権意識啓発事業（人権メッセージ・フォーラム、啓発資料の作成配布等）  
セーフティ教室

### 基礎的・基本的な学力の定着を図る教育

学力の定着・向上を目指して授業の改善を進め、また、家庭における基本的な生活習慣の形成や家庭学習の習慣化を図る取組を進めます。

東京都授業改善推進校（秋多中学校） 市研究推進指定校・研究協力校  
教員補助員（小学校・中学校）の配置 図書館補助員の配置 少人数指導の充実

### 子どものニーズに応じる教育体制の整備

子どもや保護者の願いを実現できるよう、教育内容・指導体制、学校施設・設備の整備を進め、特色ある学校づくりと学校運営の改善・充実を進めます。

特別支援教育（東京都モデル事業）  
「ことばの教室」通級指導学級（前田小学校）の開設  
食育（食に関する教育）の一環としての給食指導の推進。

### 市民の学習や交流の場、社会参画の場の整備

すべての市民が文化・芸術活動に親しみ、いつでも、どこでも、だれもが学習機会を選択し、学ぶことができ、その成果が適切に評価される生涯学習社会の実現に向けた、市民との協働による学習機会の提供、図書館事業の充実や施設整備を進めます。

東部図書館エルの開館 中央図書館の整備 生涯学習推進体制の整備（推進本部の運営等）  
生涯学習ボランティアの育成（生涯学習指導者認定講座の開催、市民解説員、ITボランティアの育成、市民塾の開設準備） 秋川キララホール事業の充実 市民企画講座の開催

### 健康で、生きがいにつながる市民スポーツの振興

市民がスポーツに親しみ、健康で生きがいのある豊かな生活を送ることができるよう「だれもが、生涯を通じて、いつでも、どこでも、気軽に親しみ、楽しむ」ことができるスポーツ・レクリエーション活動と環境整備を進めます。

秋川駅南口運動広場クラブハウスの整備 テニスコート等の改修  
各種スポーツ大会の開催 スポーツ団体の育成

### 男女共同参画社会の実現を目指した学習の推進

「男女共同参画プラン」に基づき、女性も男性も性別にとらわれることなく、それぞれの個性や能力を発揮し、あらゆる分野に責任を持って共同参画し、多様な生き方を自由に選択でき、豊かさを享受できる社会づくりの基盤となる意識啓発や自己実現、日常生活技術の向上など啓発事業を通して男女共同参画社会を目指します。

男女共同参画推進市民会議の運営 男女共同参画情報誌「f・wave」の発行  
男女共同参画フォーラムの開催 各種セミナー（ライフステージセミナー、ワーキングセミナー等）の開催

### あきる野市の地域性と歴史文化を活かした学習の推進

市内に伝わる有形・無形の文化遺産を保護継承し、あきる野市らしいまちづくりを進めるための郷土学習を充実します。

指定文化財の保存事業の支援 文化財講座、体験教室の充実  
学習ボランティアによる文化財普及活動の充実

### 家庭、学校、地域社会が連携・協力した青少年の健全育成と読書活動の振興

次代を担う子どもたちの健全な育成を目指し、体験を重視した学校外活動、余暇活動を通じて子どもの居場所づくりを進めます。

地域子ども教室の運営支援の充実 青少年体験活動等支援センターの運営 生涯学習支援者バンク、部活動指導者バンク等の充実 「家庭の日」推進事業の充実  
図書館ボランティアの育成



# 家庭は教育の原点です②

## 家庭の役割を見直してみましよう

このコーナーは、教育の原点である家庭の役割について考えたり、紙面で意見交流していきたいと考えています。今回は、前号で特集した「子どもとの信頼関係を築こう」について寄せられたご意見の一部と、家庭へのメッセージ「子どもを家事に参加させよう！」の掲載、前号で予告した「家庭の日」推進事業の作文コンクール最優秀作品、さらに今回は、家庭との連携が重要な課題である「食育（食に関する教育）」について取り上げてみました。家庭・学校・地域の中で話題にしてみてください。

教育広報に掲載されたときには、「当たり前」のことを「今更…」という気持ちで読んでしましたが、再度読んでみると、「本当に自分は子どもに安心と信頼を与えているだろうか」と反省するきっかけになりました。当たり前のようにでなかなかできない。親として必要なことも大切なことです。できれば、台所やトイレの壁に貼って、一日に何回でも声に出して読みたいと思います。

（小学生の保護者）

知らず知らずのうちに子どもの心を傷つけていることが多いかもしれません。我が家は子どもが三人なので、三人とも同じように接することを心がけていますが、子ども一人ひとりにしてみれば満足しているとは思いませんが、これからは努力していきたいし、両親が仲良くするということ

も努力していきたいです。

（小学生の保護者）

記事を読んで、私も感情的になり、同じ言葉を口にしていく時があると反省しました。「いつも同じことをママに言わせて、「知らないからね」などと…。子どもはきつとそこのとき悲しい気持ちになっているでしょうね。親として自分の子どもはきちんとしてもらいたいと思う気持ちからつい口にしてしまっていると思います。（中略）私自身怒ったあとは必ず抱きしめてあげています。そのときは自分でもいけないと思い、平常心に戻るのです。感情的にならず冷静な目でいたいと思います。家族の大切さを親も子どもも知る場面をたくさんつくりたいです。

（小学生の保護者）

### 子どもを家事に参加させよう

「お母さん、わたしも包丁を使ってみよう」

母親が、包丁でジャガイモの皮をむいたり、きざんだりしているのを見た小学生の子どもが、自分もやりたいと言いだした。

母親はひやひやしながらも、手を添えてジャガイモを切らせてみた。

「上手にできたよ。今度は一人でできるよ」

一つ切り終わると、子どもの顔に満足そうな笑顔が広がった。夕食時には、親子で一緒に作った料理を前に子どもの奮闘ぶりが話題となり、家族の会話に花が咲いた。

料理に限らず、子どもが、皿洗いやお風呂掃除、草取りなど、色々な家事に興味を示す時期があります。その時が、家事に参加させるチャンスです。

はじめは上手にできなくて、子どもに手伝ってもらうより、親がやったほうが速くて楽だと思ってしまう。しかし、面倒でも手問ひまかけて教え、親子が協働する中で、家族の一員としての意識がはぐくまれます。

家庭は教育の原点です。

あらためてお手伝いの意味を考えてみましょう。

「自分にもできた」という達成感や自分も役に立つという有用感をもつことができる。

家事を受け持つことで、責任感や社会性が育つ。

仕事を通じて、仕事の大切さを実感でき、体験が広がって、人を思いやる心が育つ。

子どもには失敗がつきものです。はじめからうまくできることを求めずに、温かい目で見守り、少しずつの進歩をほめてあげましょう。この積み重ねが、家族の「きずな」をつくっていきます。

意見・感想・問合せ 指導室  
558 8859



# 「家庭の日」推進事業 作文コンクール

## 最優秀賞受賞作品

### 「お母さんの誕生日」

あきる野市立屋城小学校

6年 谷山 有起子

7月1日、この日は私のお母さんの誕生日です。私はいつもこの日がくると、悩みます。なぜかという、お母さんに、なにをプレゼントすればいいか、わからないからです。

私はまず、お花などを買おうとしましたが、けっこうお金がかかるので、やめました。今度は、小さい香水を買おうとしたが、お母さんは、どんな香水が好きか、分からなかったの、またやめました。さらに、手作りの物を作ろうかと思ったので、パソコンや、本で調べたりしましたが、なかなか良い物が見つかりませんでした。私は結局何も買いませんでした。手作りの物も作れませんでした。私はためしにお母さんに何がほしいか聞いてみました。「お母さん、誕生日プレゼントどんなのがほしい。」と私が聞くと、

「うーん、別にプレゼントはいらないよ、有起子がなんかお手伝いと少してくれれば。」と、お母さんが言いました。けど

「だめだめ、やっぱりプレゼントじゃないと。」

と私が言い返しました。

それでもやっぱり、お母さんに何をすればいいか分かりませんでした。やっぱり、お母さんの言うとおり、お手伝いを誕生日プレゼントにした方がいいのかな、と思ってお母さんのお手伝いをしました。

まず、洗たく物をたたみました。私の家は、いつも洗たく物が多いので、たたむのがすごく大変でした。やっと洗たく物がたたみ終わったあ、と思ったら次はお皿洗いです。油よごれがひどくて、なかなかおちなくて、これもすごく大変でした。そしてさらに風呂そうじなど、他にもいろいろお手伝いをしました。

「ごくろう様、大変だった。」とお母さんが声をかけてくれました。

「けっこう大変だね家事も。」と言うとお母さんが、

「初めの方は大変だけど、慣れば何とかなるわよ、いやーでもはかどったよ、ありがと。」

と喜んでくれました。その時、感謝されたのか、すごくうれしかったです。

かったです。

今回私は、お母さんにお手伝いをプレゼントしましたが、最初の方はお手伝い何で簡単だ、と思いましたがけっこう大変で、ふだんのお母さんの気持ち分かりました。これからは、お母さんのことをもっといたわってあげよかと思えます。



谷山 有起子さん

### 学校給食

#### 「食育(食)に関する教育」の取り組み

食べるということは、身体の健康だけでなく、心の健康にも大きく関連しているにもかかわらず、家庭の中で食に関する教育がむずかしくなってきた。このような中、学校給食は、子どもたちから望ましい食生活の基本を養い、生涯にわたって自己で食管理ができる能力を養うという重要な役割を担っています。

しかし、子どもたちの現状に触れてみると、好き嫌いが多い子どもや野菜の名前を答えられ

ない子どもが多いことに驚きます。

また、朝ごはんを食べていない子どもの増加や、一人で食べる「孤食」、家族が別々なものを食べる「個食」も気になります。いわゆる「崩食」の問題が見えてきます。このようなことから、食育の重要性を感じ、給食時間だけでなく、授業での食育を重視し、学校、給食センター(栄養士)が連携して食育に取り組んでいます。

例えば、屋城小学校の三年生では、栄養士が、ふかしたさつま芋を使って食物センイについての授業を行いました。一の谷小学校の五年生には、収穫時期に合わせて「お米」に関する授業を、戸倉小学校一・二年生には、「野菜について」、三・四年生に「食べ物について」、五・六年生に「栄養のバランス」の

授業をそれぞれ行いました。その他にも、「バランスよく食べること」や「牛乳(カルシウム)について」、「六つの食品群について」など、子どもに「食べる」ことの意味や大切さの授業を行いました。

これからますます重要性が増してくる食育については、家庭・学校との連携をさらに緊密にし、取組を充実させたいと考えています。



屋城小での授業風景

### あきる野市子ども家庭支援センター

当センターでは、18歳未満の子ども、その保護者及び子育てに関わる方からゆるい相談をお受けします。相談は無料で、秘密は厳守します。

また、各種子育て支援サービス(ピスの調整、子育てグループづくりの応援、子育て講座の開講及び子育て支援情報の提供)などを行っています。

開所日時 月～金曜日の午前8時30分～午後5時15分(正午から午後1時までを除く)

相談・問合せ 秋川ふれあいセンター内 55033313

# 「あきる野市教育の日」

## 教育フォーラム・中学生の主張大会大盛況

市民の教育への関心と理解を深め、次代を担う子どもたちの教育に関する取組を、市民全体で推進するための「あきる野市教育の日」の制定を記念して12月の4日・5日に行った、教育フォーラムと中学生の主張大会は、高い関心と熱気溢れるものでした。その一端を掲載しました。

### 「教育フォーラム」にて

教育フォーラムでは「命を大切にし、一人ひとりが輝いて生きていこう」をテーマに、第一部「意見交流をしよう」では、市内小・中学生の「命や思いやりに関する意識調査」結果をもとに、命や思いやりに対する子どもたちの意識や行動について意見を交流させました。第2部では、「障害を乗り越えて生きる」というテーマで中村勝雄さんに熱いメッセージをいただきました。

今後も、参加者のご意見等を踏まえて、あきる野市教育の日に関する事業の企画・運営を充実していきたいと考えています。

とても良いフォーラムでした。大人の目線で見ると子どももの悩みは小さく見えますが、子

どもにとっては体いっぱいの悩みです。このフォーラムから各学校で、子どもたちと先生、保護者も交えて「生きる」ということを考えていけたらいいと思います。このフォーラムだけで終わらせず、また、広報活動だけで満足することなく、体でぶつかり合いながら、大人と子どもが真剣にかかわり、語り合う場を作って

いけたらいいと思います。

「小学生の保護者」  
教育広報「一房のぶどう」第2号の家庭への呼びかけが今日のフォーラムの内容を集約していると思います。「あいさつをしよう」、それは人間関係を円滑にし、「生活リズムを整えよう」は、我慢する力を育て、「子どもとの信頼関係を築こう」で、家族に受け入れられている幸福感を味

わい、生きる力を育てられると思います。ですから、この呼びかけをこれからも大切にしていきたいです。中村勝雄氏のお話は、涙あり、笑いあり、とても感動し、子どもに聞かせたいと思いました。「理屈や理由ではなく、自殺は絶対ダメ」。心に残りました。

「中学生の保護者」

## 中学生の主張大会

### 最優秀賞受賞作品

#### 「日本語の変化」

あきる野市立増戸中学校

3 年間 宮 萩

日本語って難しい。ある時、ばらばらと新聞をめくっていたらこんな言葉が目についでいた。飛び込んできました。文化庁が今年の1・2月、十六歳以上の三千人に対して「国語に関する世論調査」を行いました。その結果、「敬を飛ばす」や「姑息」などの慣用語の意味をほとんどの人が間違えて覚えていたということが分かりました。また、「なにげに」「ちょー」などの若者言葉を使う人が増加していることも分かったそうです。

今や友達同士の会話であれば「ちょー」「なにげに」などという言葉を使うことが普通になっています。この様な言葉によって会話が進み、情報を楽しみながら仲間に伝えることができます。私達は知らぬ間に「新しい日本語」を作ってきたのだな、と感じました。古典の時代から現代にかけて、一つの言葉の持つ意味や使い方が変わってきたように、今、日本語は私達若者によって変化している途中なのだと思います。

しかし、友達同士、仲間同士のおしゃべりならばこの会話で十分ですが、年齢・立場・地域など、さまざまな違いがある人と話す場合は気をつけなければなりません。例えば、初めて行った場所を通りすがりの人に道をたずねてみたとしても、「ねえねえおじさん。ってこっち?」「ごめんよ。私にはよく分らないねえ。」「えっ、ウソ、マジで?ちょーやばい。」こんな言い方では失礼です。「失礼ですが、はこちらですか。」「そうですか。ありがとうございませぬ。」「この方が、突然聞かれた相手も、ずつと気分がいいでしょう。言葉は、単にコミュニケーション

ンをするためのものだけではなく、相手に対する敬意や思いやりの気持ちも一緒に伝えるものと言えます。

長い歴史の中で人々の知恵や生活感がつくり出してきた言葉は、とても温かく、素朴で美しいものです。「猫の手も借りたいほど忙しい。」と言われれば、「とても忙しい。」と言われるよりも、その人の必死さや大変さがはつきりと想像できます。

言葉は、毎日の生活の中で、人々の喜びや悲しみなど色々な感情を吸収しながら生み出されてきました。何千年の時という荒波にもまれて形を変えながら、今でもこうして残っているのです。そう考えると、一つ一つの言葉には、今の私達につながるたくさんの人々の思いが詰まっているのだと感じます。だから、私達の祖先が生み出してきた日本語も誇りに思うべきだと思います。

言葉はりっぱな文化です。時代と共に次々と生み出されるエネルギーシユな日本語と、みがき抜かれた美しい日本語。私達は、この二つの日本語を上手に使い分ける必要があるのではないのでしょうか。若い私達は、古き良き日本語に誇りを持ちながら新しい言葉を生み出していくべきだと思います。



# 特別支援教育推進情報

## その3

## あきる野学園との副籍事業(2)



副籍事業は、都立の盲・ろう・養護学校に通学する小学生や中学生が、住んでいる地域とのつながりを持ち続けることができるようにするための取組です。あきる野学園養護学校と地域指定校である南秋留小学校が進めた取組の様子を紹介します。

学習発表会に向けて  
一緒に練習しようね！

田中美春さんと南秋留小学校  
3年1組の友達

『先日、お忙しいところご来校ありがとうございました。学校に戻られてからの田中美春さんの様子はいかがだったでしょうか。(南秋留小の)子どもたちは、田中さんが来る前も、来ているときも、帰ってからもとても嬉しがって、喜んでいました。クラスの雰囲気も優しいと思います。ぜひみたいになるから不思議です。私も子どもたちも、とても大切な勉強をさせてもらっているように思います。』

これは、南秋留小学校3年1組の担任である高橋先生が、あきる野学園の田中さんの担任の先生宛てに書いた手紙の一部です。南秋留小学校区域に住み、あきる野学園養護学校に通学している田中さんと3年1組の交流活動が進んでいます。

南秋留小学校訪問・交流日  
10月27日 学芸会の練習の参観に学校を訪問  
11月4日 学芸会を他の児童とともに鑑賞  
1月24日 3月の学級での学習発表会の練習に参加  
2月23日 発表会の練習に参加  
3月1日 授業参観日の学習発表会に参加

南秋留小学校(地域指定校)で交流を始めるまでには、両校の教員が学校を行き来して、子どもや学級の状況について相互理解を図り、交流の進め方について十分に検討してきました。その過程で、『地域で出会ったときに、「こんにちは」と挨拶を交わせる関係づくりができれば何よりです』という、田中さんの保護者のお気持ちや、交流に際してのご希望などもうかがいました。このように関係校の教員や保護者の努力によって、子どもたちとともに地域で過ごす仲間としてかわる機会が具体化したのです。

『今日は来てくれてありがとう。楽しかったかな?「犬のおまわりさん」の歌のとき、私はリーダーをふいたよ。ちよつとびつくりしたみたいだね。さいこの「犬のおまわりさん」の

歌のとき、手をたいたいたりしてくれてありがとう。こんどは「アイアイ」をリーダーでふくから楽しみにしてね。またこんどもいっぱい遊ぼうね。美春ちゃん、3年1組として学級に来るのを楽しみにしてまっているからね。』

3年1組 大木春奈

短い文章の中に、子どもたちの優しい気持ちと交流活動への期待感が読み取れます。この日の田中さんは、3年1組の子どもたちに惹き付けられるように、歌に合わせて自ら手拍子をしたということ。地域の学校の子どもと養護学校の子どもがまさに心を通じ合わせた瞬間だったのかもしれない。

### 「ことばの教室」を開設します

教育委員会では、平成17年4月、前田小学校に通級指導学級(ことばの教室)を開設します。  
この学級は、一人ひとりの「ことば」の課題に合わせて、週に1~2回(1回45分、60分)の指導を行います。  
また、お子さんの「ことば」に関する心配や、学級の指導内容などの相談も受けますの

で、気軽にご相談ください。  
相談先  
教育相談所(秋川) 55  
8 6444、(五日市)  
596 6460  
西秋留小学校通級指導学級  
(情緒)コミュニケーション  
クラス(担任)中村、杉田  
鈴木 558 5104  
学務課又は指導室 558  
1111

### 副籍事業の

今年度の取り組み状況  
子どもたちの状況に合わせて次のように進めています  
あきる野学園養護学校との副籍事業実施児童・生徒  
小学校13名・中学校5名  
地域指定校(副籍を置く学校)  
小学校6校・中学校2校 計8校  
学校だよりや学級通信等による情報の交流 小中学校8校  
学芸会等の行事での交流 小学校6校  
心身障害学級との交流 小学校1校  
総合的な学習の時間や学級活動などの授業での交流 小学校2校  
生徒が学園を訪問 中学校1校

### 南秋留地区自慢の『どんど焼き』

南秋留小PTA主催で地域に根ざした行事の一つに『どんど焼き』があります。

これはお正月のしめ縄などを燃やし、今年一年の無病息災を願うものです。実施にあたっては大勢の児童・保護者のもとより地域の各種団体が協力し、事前の歳の神作り、どんど焼き当日の繭玉作りを行ない、またPTA・祭愛好会・いずみの会・青少年南秋留地区委員会は、おしるこ・やきそば・おでん・うどん等の模擬店を出店し、その味の良さでも参加者に大人気です。



今年も歳の神も5基と大規模になり、1月15日夕方に点火が行なわれました。雨にもかかわらず、大変多くの方が参加され、地域の皆さんが非常に楽しみにされている様子が感じられました。地域交流のためにも、いつまでも残ってほしい行事です。

### 文化財で生涯学習 旧市倉家住宅

五日市郷土館の敷地内にある市指定有形文化財の旧市倉家住宅は、江戸時代末期の構造と形式を持ったこの地域の一般的な農家の建物です。郷土館ではこの旧市倉家住宅を生きた民俗資料として活用するために、さまざまな事業を展開しています。

昔、あきる野市周辺では農家は蚕(かいこ)を飼い、繭(まゆ)を売って現金収入を得ていたことから、旧市倉家ではこれを再現し、5月から6月にかけて蚕を育てています。繭ができる、糸引きの体験日をもつけます。市内のボランティアグループの協力を受けて機織りの実演を見たり、体験することもできます。

これ以外にも、庭先にある小さな畑で、のらぼうやサツマイモ、綿花、麦などを作り、サツマイモは芋掘り、綿花は綿繰(わたくり)、麦は脱穀した後、唐箕(とうみ)にかけるなど、様々な教室も実施し、市内の小学校の社会科見学などでも体験の機会を設けています。

また、年中行事にあわせた飾りつけや、季節ごとの普段の生活風景も再現しています。繭玉、

雛人形、鯉のぼり、破魔矢などを飾ったり、夏には畳の間に蚊帳(かや)を張ります。年配の来館者からは、とても懐かしいとの声がよく聞かれます。また秋には十五夜のお月見飾り、年末には餅つきなどを行なっています。

旧市倉家の中に入ると左手に囲炉裏があります。ここでは開館している時間は薪を燃し、鉄瓶で湯を沸かしていますが、それは昔の風景を再現するというのもう一つ、茅ぶきの家を害虫から守るといいう意味もあるのです。

このように、旧市倉家住宅は特別な行事だけではなく、普段の様子からでも昔の生活をうかがい知ることが出来る施設です。

なお、糸引き体験、芋掘り体験、餅つき体験などの事業は、



### 教員補助員を募集します

市内の小・中学校の授業で、教員を補助して、子どもの学習活動をサポートできる方を募集します。

- 必要資格 教員免許又は教員志望者等
- 補助教科 国語、算数、数学、英語
- 必要書類 履歴書(写真、希望の教科、資格を証する写真など)
- 問合せ 指導室指導係 5582431

### ギャラリーを開設しています

小・中学校の子どもたちの学校教育活動での作品を市民の方にご覧いただけるように展示しています。

今月は一の谷小学校・前田小学校の子どもたちの作品です。ぜひ、ご覧ください。

期間 3月29日 まで(土・日曜日、祝日は除く)  
時間 午前8時30分～午後5時15分  
場所 市役所別館1階ギャラリー

- 今月の展示内容
- 一の谷小学校 2月の伝統音楽発表会で使用した5、6年生が製作した衣装やその時の写真。
- 前田小学校 子供たちが図工の授業で製作した絵画。
- 今後の展示予定

展示月	学校名	学校名
4月	増戸小	西中
5月	五日市小	戸倉小
6月	東秋留小	秋多中
7月	多西小	東中